

AIエージェントの起動タイプ

Chapter 1 Section 3 | AIエージェント・ストラテジスト試験対策

今日学ぶこと

- 1 3つの起動タイプ**
指示型 / 定時型 / 条件型
- 2 指示型 vs 条件型の判別キー**
AIに「直接依頼したか」が決め手
- 3 条件型の本当の価値**
現場に追加作業ゼロで組み込める
- 4 1エージェント＝複数タイプの組み合わせ**
業務場面ごとに使い分け
- 5 起動タイプ×自律性の独立性**
2軸を分けて設計する

AIエージェントは

何をきっかけに

動き出すのか？

起動タイプは3つ

指示型

人がリアルタイム指示

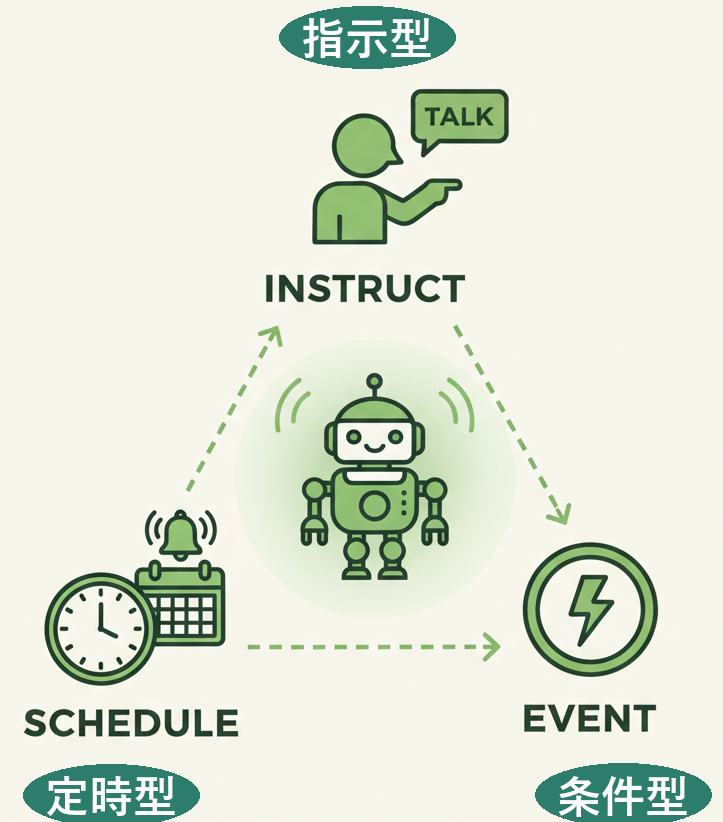
定時型

設定した時刻に自動起動

条件型

何かが起きたら起動

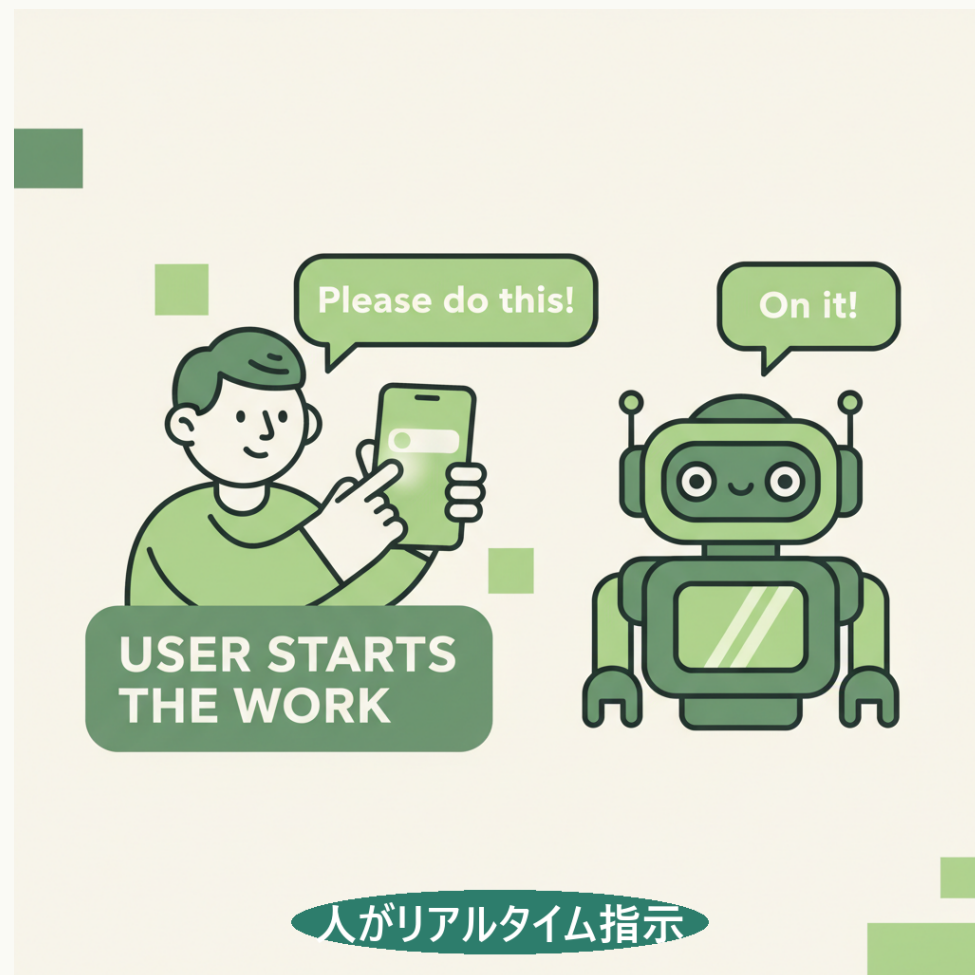
あらゆる業務はこの3つのきっかけのどれかで始まる。エージェント設計でも同じ。



① 指示型：人がリアルタイムで頼む

- チャットでメッセージ、ボタンを押す、音声で話しかける
- もっとも**基本形**。ChatGPTやClaudeの使い方そのもの
- 「いつ動くか」が**人の操作タイミング**で決まる

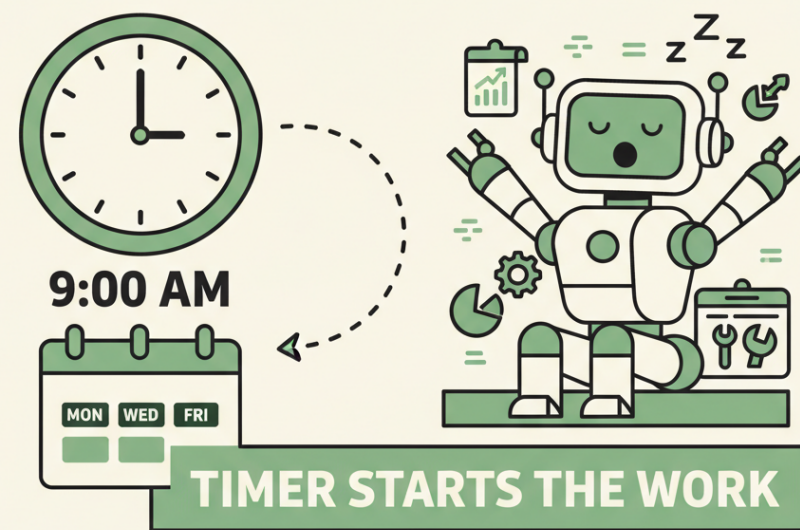
人が「やって」と言った瞬間に動く



② 定時型：時計が合図を出す

- 毎朝9時、毎週月曜、毎月1日、契約更新日の30日前...
- 人が毎回指示する必要がなく、**スケジュールが起点**
- **導入効果が見えやすい**（処理タイミングが固定）

毎日の集計レポートや棚卸通知など、**初期導入**や**効果検証**に向いている起動タイプ。

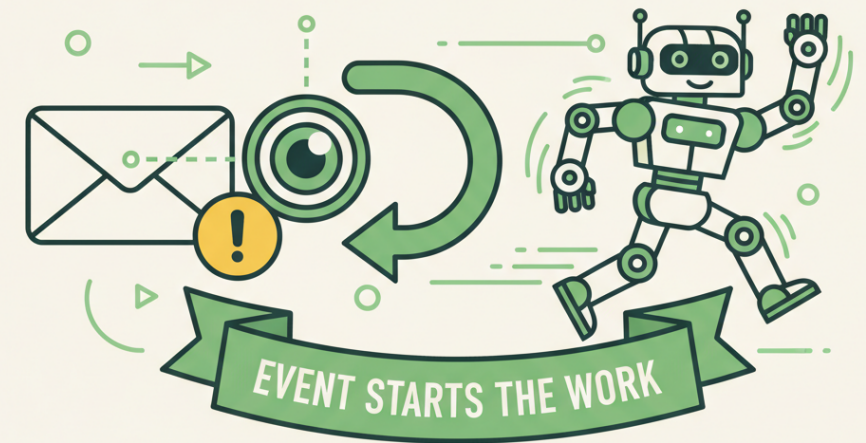


時計が合図を出す

③ 条件型：変化を検知して動く

- メール受信、CRMのステータス変更、在庫が一定数を下回った、エラー検知
- フォーム送信、Webhook、閾値、すべてここに含まれる
- 人間が**気づいて動く**判断をAIが肩代わり

「何かが起きた」を検知して動く

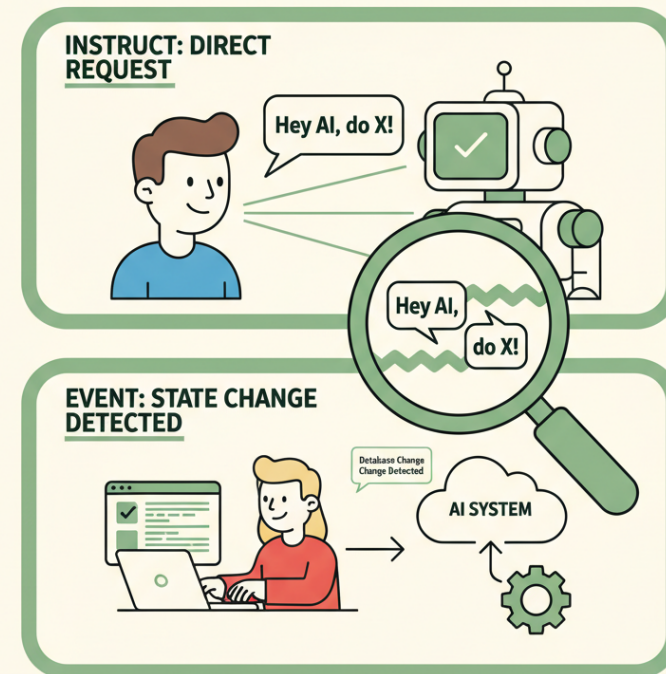


変化を検知して動く

試験頻出：指示型 vs 条件型の判別

AIエージェントに「直接依頼したか」

- 営業担当がCRMに新規リード登録→ 自動でウェルカムメール生成
- これは「営業がエーアイに頼んだ」のではなく、CRMの状態変化を検知している
- だから条件型。人が直接依頼していなければ指示型ではない



AIに直接依頼したか？

条件型の本当の価値

- 営業担当に**追加作業ゼロ**（普段通りCRMに登録するだけ）
- 「エーアイを使うために別画面を開く」「情報を転記する」が不要
- 通常業務に**自然に溶け込む**

「使うのが面倒だから使わない」という**形骸化リスク**の典型対策（Section 7で深掘り）。

1エージェント＝複数タイプの組み合わせ

- 同じエージェントが、場面ごとに**違う起動タイプ**で動いてOK
- 例：朝の通知（定時型）＋ チャット質問対応（指示型）＋ 申請受信時の要約（条件型）
- 業務シナリオごとに**最適な起動タイプ**を組み合わせで設計する

起動タイプ × 自律性は独立

起動タイプ

いつ動くかを定める軸
(指示型/定時型/条件型)

自律性レベル

どこまで任せるかを定める軸
(反応/支援/協働/自律)

2つの軸を独立に組み合わせて設計する

シナリオ：ヘルプデスクAIの現状業務

体制と数字

全社**3,000名**のIT部門ヘルプデスク
月**500件**の問い合わせを**3名**で対応
FAQ該当：月300件×15分 = **月75時間**
非FAQ：月200件×45分 = **月150時間**
合計**月225時間**消費中

日々の作業の流れ

メール受信→カテゴリ判断
FAQフォルダのExcelをキーワード検索
FAQ該当：手入力で返信／非FAQ：個別調査
対応記録もExcelに手入力
月次レポートは管理者が手作業集計

今ある課題：担当者の暗黙知に依存（属人化）／Excelキーワード検索だと該当検出が漏れる／対応記録漏れ月**20件**／月次集計に**8時間**

シナリオ：ヘルプデスクAIの起動タイプ設計

前提

現状業務は前スライドの通り
月**225時間**を**3名**で消費中

これから学ぶ3つの判断

場面ごとに**起動タイプ**を割り当て→**実装順序**を決める→自律性と**組み合わせる**

判断1

場面ごとの
起動タイプ設計

判断2

どこから
実装するか

判断3

起動タイプ×
自律性の組み合わせ

シナリオ：月500件のヘルプデスク

判断1：場面別に起動タイプを割り当てる

- メール受信 → メールサーバー上のイベント検知 = 条件型
- チャット質問 → 社員がリアルタイムに問い合わせ = 指示型
- 毎朝の未対応チケット棚卸 → 毎朝の固定時刻 = 定時型

3つすべてが1つのヘルプデスクAIに共存する。場面ごとに最適な起動タイプを選ぶ。

シナリオ：月500件のヘルプデスク

判断2：どこから実装するか

- 月500件のうち大半がメール経由＝最もインパクトが大きい
- 優先順位：メール対応（条件型）→チャット対応（指示型）→定時棚卸（定時型）
- 各段階で現場の声を拾い、次の段階に反映

インパクトが最大の起動から先に実装する

シナリオ：月500件のヘルプデスク

判断3：起動タイプ × 自律性の組み合わせ

場面	起動タイプ	自律性レベル	ねらい
メール対応	条件型	協働型	FAQ該当は自動回答、それ以外はエスカレーション
チャット対応	指示型	支援型	案を出して担当者が確認のうえ送信
朝の棚卸	定時型	支援型	通知のみ。対応判断は人

試験で問われる4つの論点

- 1 3つの起動タイプ（指示型 / 定時型 / 条件型）を識別できる
- 2 指示型 vs 条件型の判別キー＝「AIに直接依頼したか」
- 3 1エージェント＝複数タイプの組み合わせが実務で一般的
- 4 起動タイプ × 自律性は独立した設計判断